

今日のトピック 英国経済と通貨の動向 (2017年9月)

雇用は回復基調、年内にも利上げの可能性

ポイント1 雇用は堅調に回復

物価は5年ぶりの水準に上昇

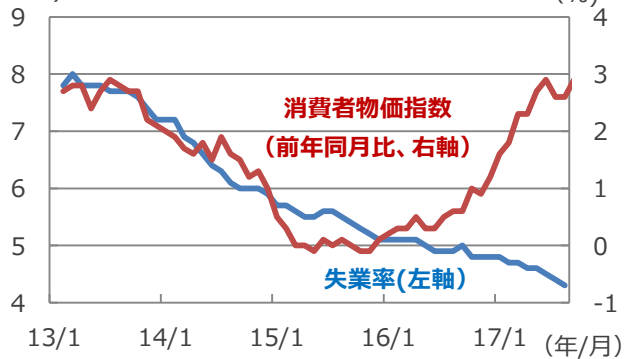
- 足元の英国景気は概ね好調です。景気の先行指標となる企業の購買担当者景況感指数は景気拡大を示す50超となっています。雇用環境も改善しており、7月の英国の失業率は4.3%と市場予想（ブルームバーグ集計）やイングランド銀行（BOE、イギリスの中央銀行）の事前予想を下回りました。これは40年ぶりの水準です。
- また、8月の消費者物価指数は前年同月比+2.9%と、市場予想の同+2.8%を上回り、5年ぶりの高水準となりました。食品価格が鈍化した一方、原油価格の上昇が影響したと考えられます。

ポイント2 金融政策は据え置き

経済動向はやや強いと指摘

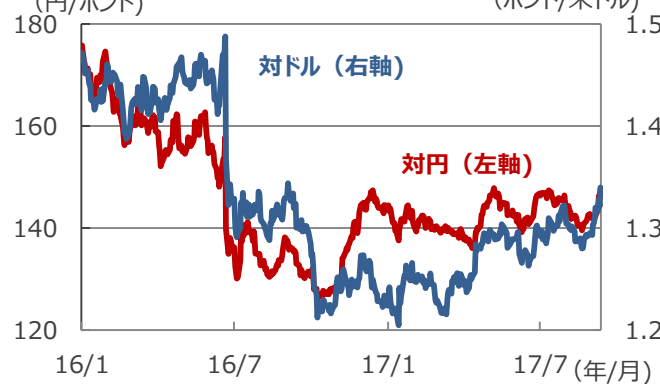
- BOEは、14日の金融政策委員会（MPC）で金融政策（政策金利や量的緩和の規模）を据え置き、今後数カ月以内の利上げの可能性を示唆しました。
- BOEは、雇用が堅調なことなど、過去1カ月の経済の動きが予想よりもやや強いと指摘しています。賃金については、基調的な上昇率は弱めであるものの、回復のきざしがあると見ています。また物価についても、予想よりもやや高いとし、10月には3%を超えると見ています。

【失業率と消費者物価指数】



(注) データは、2013年1月～2017年8月、失業率は2017年7月まで。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【英国ポンド】



(注) データは、2016年1月4日～2017年9月14日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 経済、通貨は底堅い動きが続く見込み

- BOEは、足元の英国景気に対して、前回のMPC開催時に比べてやや強気な見方を見せています。物価はBOEが目標とする2%を超えており、次回11月のMPC開催時にも利上げが発表される可能性があります。ただし、インフレ率が上昇し続けるとは想定されていないため、利上げが実施されても緩やかなペースで限定的なものにとどまると見られます。英国ポンドは、英国景気の回復や金融政策の正常化などにより、今後も堅調に推移すると見込まれます。

ここもチェック! 2017年9月13日 堅調な景気と政治の安定を背景とした『ユーロ高』
2017年8月24日 『ドイツ総選挙』、1カ月前の情勢は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。